

IV-160 交通・活動スケジュール形成行動に関する考察

群馬大学 正会員 磯部 友彦

名古屋大学 正会員 河上 省吾

東海テレビ 正会員 佐藤 理晴

1. はじめに

交通・活動スケジュールとは、活動主体である人が実施する交通と活動が時間・空間系の中における連続した行動であることを表現するものである。筆者らは既に交通・活動スケジュール決定行動のモデル化を試みているが、本稿では、個人の交通・活動スケジュールが時間と共にその内容の綿密さ、確かさの増していく過程を交通・活動スケジュール形成行動プロセスとして捉え、その性質を考察する。

2. 交通・活動スケジュール形成行動の性質

a) 活動レベル、スケジュールレベル

交通・活動スケジュール形成行動の表現における問題点のひとつとして、交通・活動スケジュール形成行動が、個々の活動一つ一つについてその活動に含まれる内容を検討、決定して行くことと同時に、その個々の活動を時刻順に配列した集合体であるスケジュールにおいても、その活動一つ一つについて検討、調整を行っているということが挙げられる。

このような交通・活動スケジュール形成行動における二元性を本研究では、「活動レベル」、「スケジュールレベル」と名付け、交通・活動スケジュール形成行動を両者の関わりの中で捉えていく。具体的には、個々の活動の内容が形成されていくシステムを「活動レベル」で捉え、「スケジュールレベル」では、活動をスケジュールに組み込む、あるいは削除する過程を中心に考える。

b) 不定活動、不完全活動、完全活動

個々の活動において、スケジュールとの関係について考察するとき、最も重大な要因は、その活動を行う時刻(時期)が決まっているかどうかということである。交通・活動スケジュール形成行動の動的性質について考えると、時間要素の未だ定まっていない活動がスケジュールに組み込まれていく過程についても明らかにする必要がある。そこで本研究では、実行する意思あるいは必要性をもちながらも、時刻が決まっていないためスケジュールに組み込むこと

ができない活動を、「不定活動」と呼ぶことにする。

また、時間要素以外にも個々の活動には、あらかじめ計画し、決定を下しておく必要性のある内容は多い。しかしながら、時刻決定時に、既にそれらの項目がすべて決定済みであるとは限らない。そこで、本研究では、時間が決定している(すなわちスケジュールに組み込まれている)活動のうち、時間以外に決定する必要のある要素の内容を決定していない活動を「不完全活動」と呼び、決定する必要のある内容がすべて決定済みである活動を「完全活動」と呼ぶことにする。

c) スケジュール安定状態

人は、ある特定の日のスケジュールに対して、常に検討を加えているわけではない。何がしかの条件の変化、新たな活動の組み込み(あるいはその打診)があったときに検討を加え、必要があればスケジュールの変更を行う。通常の状態では、スケジュールはたとえ不完全でも落ち着いた状況となっている。これはスケジュールレベルにおいて、特定の日のスケジュールに対する計画内容の安定しているであり、これを「スケジュール安定状態」と呼ぶことにする。そして条件変化あるいは新たな活動の組み込みによって「スケジュール安定状態」が一旦不安定になり、様々な検討の結果、新たな「スケジュール安定状態」となると考える。

d) 交通行動

個々の活動にとって、その活動を実行する場所への移動方法である交通行動に関する計画を立てずにその活動の実行計画は成り立たない。しかしながら交通行動は活動を実施するための派生需要であることも事実である。本研究においては、交通・活動スケジュール形成行動における交通行動をスケジュールレベルにおいて各活動場所間を移動する行為として捉える。ただし、その交通行動が空間的、時間的に可能か否かは、活動レベルでの検討で既になされていると考える。

e)活動の並行状態

人が、特定の日のスケジュールに対して、「Aという活動を行う可能性もあるが、Bという活動を行う可能性もある」と想定している場合がある。その状態のことを本研究においては、活動の並行状態と称す。この概念はAが実施不可能なときの代替案としてBが存在する場合も、両者が全く対等である場合も含んでいる。スケジュールの効用最大化に反しているようにも考えられるが、本研究のようにスケジュールを計画していく過程を考える場合には、この並行状態を含むスケジュールが、スケジュールの最終決定の前段階として現れるものと思われる。

3. 交通・活動スケジュール形成行動の実態

a)アンケート調査

交通・活動スケジュール形成行動の実態を把握するために直接面接調査形式によるアンケート調査を実施した。被験者は、すべて大学生であり、調査対象は1990年1月13日(土)～15日(祝)の間の休日の交通・活動スケジュールである。面接は、対象日の前後2回行い、行動予定とその実施結果の両方を得ている。サンプル数は14人であり収集された活動個数は表1のとおりである。

b)不完全活動の実施状況

採集された活動の中には、不完全活動のまま実施

時刻に至り、その場で不完全な内容に関して決定を下しつつ実施する活動もある。これらに分類される個々の活動に対して、不完全な部分、及びそれに対応する実際の活動をまとめたものが表2である。

不完全活動には、その内容として「誰と過ごすか」が決まってい「何をするのか」等の決まっていない活動が多く、それらの未解決部分はその実施時に決めている活動が多い。この種の活動の解釈として次のことが考えられる。共にする人が必要な活動、つまり Arranged の活動は、その活動の計画の際に相手と実施時刻の打ち合わせをする必要がある。それは時間地理学でいうところの結合の制約である。よって、まず時刻のみが先決し、スケジュールは形成されるが、まだ不完全活動の状態のままであり、時間以外の要素はその後に決まる。分析結果を見てもこれらの活動はすべて Arranged の活動であり、Arranged の活動はその成立時点で結合制約を強く受ける活動であることをこの調査結果は示している。

c)不定活動の実施状況

活動の動機の発生した直後、すぐにスケジュールに組み込まれ不完全活動となる活動数は26件であり、一時的に不定活動となる活動はサンプル総数14人中の5人から得られた14件である。不定活動となった理由について分析したところ、共通の特徴として、スケジュールの全体の影響により、時刻決定が後回しになり、とりあえず不定活動として扱われたということであろう。これはすなわち、個々の活動について考察を加えるとき、それらの集合体であるスケジュールに関しても注意を払う必要があることを裏付けている。

表1 収集された活動の種類

活 動 の 種 類	予定	実際
Routine (習慣化した活動)	5	5
Arranged (他人と計画した活動)	3 8	3 6
Planned (自分で計画した活動)	5	4
Unexpected (予期せぬ出来事)	—	1 2
計	4 8	5 7

表2 不完全活動の実施状況

実施者	活動の種類	不完全な部分	状 況 と 対 策
No. 1	Arranged	活動の内容 (何をするか)	実施するメンバーで集まって食事をしながら、相談し、友人宅を二件訪問した。
No. 2	Arranged	活動の開始時刻	友人宅の訪問において、何日にいくかは約束していたその時間は決めていなかった。
No. 3	Arranged	活動の内容	実施するメンバーで集まって食事をしながらにをするかを相談しスポーツ施設にいくことにする。
No. 5	Arranged	いくつかの活動 の順番と実施時間	いくつかの実施したい活動があったが、友人の都合により、何時に行えるかわからない活動があった。
No. 6	Arranged	活動の内容、 集合場所	当日に電話をして決めた。
No. 14	Arranged	活動の内容	当日に友人と会って決めた